

所信表明書

公立大学法人福山市立大学
理事長選考会議議長 様

公立大学法人福山市立大学理事長候補者となるに当たり、次のとおり所信を表明します。

2022年 8月 24日

名前

渡邊一成

学問の力で未来を拓く ～ WISDOM OPENS UP TOMORROW ～

福山市立大学は、個別の専門領域だけで対応することが困難な現代社会の諸課題に対して、学際的・実践的な教育研究を進め、専門分野の融合による新しい「知」の創出をめざすとともに、持続可能な地域社会の発展に寄与する人材の育成を目標としています。

本学は、地方中枢拠点都市である福山市が設置する総合大学として、本学の特長を活かした教育研究を実施することにより、社会の変容に応じて活躍できる人材を輩出するとともに、多彩な基礎研究や応用研究、地方都市課題研究を推進することで、福山市の発展に寄与し、学問の力で未来を拓いていきます。

「知」の拠点としての持続的成長（公立大学法人福山市立大学の将来ビジョン）

本学のキャッチフレーズである“キャンパスは街、学ぶのは未来”を踏まえ、本学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる人材を育成するとともに、小規模地方公立大学ではあるが様々な専門分野の教員が集う強みを活かした教育研究や、法人化を契機としたガバナンス改革を推進し、地域創成・活性化の拠点となる大学を旨とし、将来ビジョンとして“「知」の拠点としての持続的成長”を掲げるとともに、3つの方向性を定めます。

1. 秀でた研究力と質の高い教育活動の好循環

優れた研究者でもある教員が、秀でた研究力に裏付けられた質の高い教育活動を実施し、異分野の教員間による議論を深めることで研究力をさらに向上させることで「秀でた研究力と質の高い教育活動の好循環」を一層加速させます。

2. 主体的・継続的に学ぶ力を有し、協働して価値創造に取り組む人材の育成

幅広い学問分野を学際的に学ぶ学生が集い、初年次教育から少人数ゼミを展開する本学の特色を活かし、興味・関心の幅を広げ、深く考え抜く力を高め、主体的に課題を設定し、協働して新たな価値創造に取り組む人材を育成します。

3. 多様な人々が集い、学び合う、広く開かれたキャンパス

国籍・文化・性別・年代・障がいの有無等を超えた多様な人々が集い、学び合い、相互に尊重し合うキャンパスを形成するとともに、生涯を通じた学びに資するため、広く地域や市民に学習や交流の場を提供していきます。

公正大学法人
福山市立大学

2022. 8. 24

第 78 号の2
受附

「学際的・実践的な学び」を本学のブランドに（教育の基本方針）

開学 11 年目を迎えた本学の人材育成の目標である“持続可能な地域社会の発展に寄与する人材の育成”を達成するために取り組む「学際的・実践的な学び」を本学ならではのブランドとし、その特長の深化に取り組みます。

短期的には「学際的・実践的な学び」の基礎的素養として、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定を受け、スキル修得を旨とします。また、高等学校における新学習指導要領が 2022 年度より本格始動したことを踏まえた、学部教育の体系・ポリシー等を見直すとともに、入学者選抜制度の見直しにも取り組む中で、「学際的・実践的な学び」のブランディングを推進します。

これらとともに、従来からの本学の特長である、少人数ゼミによる Active Learning の推進、実習・実践型教育の継続、幅広い学問分野から構成される教員陣が実施する共通教育・専門教育の深化、「キャンパスは街」を体現する学外授業や課外活動の推進についても充実に取り組み、また課題である大学院生の確保に向けたトップセールスにも取り組んでいきます。

研究と教育の相乗効果の促進（研究の基本方針）

「学際的・実践的な学び」は、本学に所属する教員の研究力の向上が、その礎をなしており、教員の研究活動・研究環境の一層の充実に取り組むことが、本学による“学問の力で未来を拓く”取組みの原動力となり、また、社会の課題解決に向けて、地域社会と連携した実践的で学際的な学術研究の推進や、児童教育学や都市経営学という新たな学問を創出することに至ると考えます。

そのため、教員の研究力アップに向け、従来の基盤研究費並びに異分野の教員間による研究深化等に資する重点研究費の維持・継続、科研費等外部資金獲得の推進・支援、及びその還元方法や、全国学会や国際会議等での研究成果の積極的な発信に力点をおくとともに、法人化前からの教員からの強い要望であるサバティカル研修の導入による研究力のさらなる向上に取り組めます。

こうした教員の研究力の向上が、質の高い教育活動の実施や、地域の課題解決として結実し、本学の研究活動のスパイラルアップを加速していくと考えます。

地域への「知」の還元（地域貢献の基本方針）

本学は「大学の使命」において、地域に開かれた教育研究拠点として地域の文化の向上に貢献するとともに、国際化時代に相応しい地域社会の実現に貢献することを謳っており、地域の保育所・学校・施設等と連携した実践的な教育研究を進めることで地域の教育力向上をめざし、産業界や行政機関等との連携を進める中で福山市のシンクタンク機能を担うとともに、地域住民に生涯学習等の機会を提供し、地域の文化の向上に寄与することを目標として掲げています。

本学は、2024 年 4 月に、地域への「知」の還元の拠点施設である（仮称）連携棟が供用を開始します。併せて、法人化に際し、（仮称）市民研究所構想が打ち出されており、その実現が求められるところですが、“小さく産んで大きく育てる”、“段階的な機能アップ”により推進していきます。また、これまでどおり、地域連携フェロー等による社会貢献・地域貢献の活動、地域からの強い要望である、ものづくりの担い手育成や地元就職率の向上にも取り組み、地域の発展に貢献できる人材の育成とともに、地域の産業の振興や生活・文化の向上等にも貢献していきたいと考えます。

価値共創により構成員が誇れる大学に（経営管理の基本方針）

公立大学法人である本学は、自律的かつ効率的な法人運営に取り組むとともに、税金を原資とする福山市からの運営費交付金の受入れに応じた説明責任や透明性の確保、中期目標・中期計画・年次計画に基づく事業推進と事後評価・情報公開により説明責任を果たしていくことが求められていると認識しています。

また、大学組織は、指揮命令系統と責任範囲を明確にしている「ピラミッド型組織」である事務組織と、上下関係に縛られない、双方向のコミュニケーションが取れる風通しの良い「アメーバー型組織」である教員組織という2つの組織体で運営されている点が特徴的であると考えます。大学の経営管理は、こうした組織体で形成されていることを認識した上でリーダーシップを発揮していく必要があると考えています。

民間企業や一般財団法人での職務経験より培った危機管理能力や経営感覚を活かし、効果的な広報活動や新たな財源確保などにも果敢に取り組み、全ての学生が本学での学びに、そして、全教職員が本学で働くことに満足し、本学の構成員全員による価値共創により、“誇れる福市（ふくいち）”のさらなる進展のために、皆さまと力をあわせて精一杯取り組んでいく所存です。

終わりに、私は就任後、理事長兼学長として全うすべき職務を遂行するとともに、研究活動や社会活動等にも時間の許す限り対応したいと考えております。これまで同様、「できることから一歩ずつ、変えられる部分から着実に変革を」をスローガンに、“行動する理事長兼学長”として任期を全うしたいと考えております。

※所信は、公立大学法人福山市立大学の将来ビジョン、教育、研究、地域貢献、経営管理の基本方針について、3,000字以内で記載してください。

※用紙はA4縦版とし、横書きしてください。

※記入欄は、必要に応じて調整してください。

※理事長候補者選考の過程でこの所信表明書は公表されます。